



「どんな未来を望みますか？」
そう聞かれたら、どう答えるだろうか。

アフリカのマリ共和国で暮らすある子どもは
その問いに対し、
画用紙いっぱい稲穂の絵を描いた。

世界はどんな状況なのか。
アフリカの子どもたちは今何を思うのか。
日本に住む者として、北海道大学として、
できることはないのか。

まず、知ろう。世界を。

北海道大学 社会創造力育成プロジェクト キックオフトークセッション

マリ共和国×浦幌町×北大まるごと交流祭

Sackomi から世界へ 100年後の未来への提言

～「つくられる社会」から「つくりたい社会」へ～

2024/12/18 (水) 19:00～

Speaker

◆ウスビ・サコ 氏

マリ共和国生まれ。京都精華大学人文学部学部長を経て
2018年4月から2022年3月まで京都精華大学学長を務める。
アフリカ出身者として日本初の大学学長。2025年日本国際博覧会協会副会長。現在北海道大学の客員教授も務める。

◆近江 正隆 氏

東京生まれ。19歳で北海道に移住し、一次産業に携わった
後、十勝地域でのまちづくりと次世代教育事業の立ち上げに
奔走。マリ共和国が注目する「うらほろスタイル」や「とがち農
村ホームステイ」の基盤を築く。現在北海道社会教育委員。



申込フォーム

主催 北海道大学
会場 北海道大学オープンイノベーションハブ エンレイソウ メインラウンジ
参加費 無料
問合せ 北海道大学大学院教育推進機構



一緒に考えよう！持続可能な社会づくりに向けてできること。

- ・100年後は世界の人口の半分がアフリカ人に（国連の発表予測値）
- ・100年後の日本の人口は今の半分に（7500~4000人との総務省の予測）

この数字を見て、あなたは何を思いますか？

どんなことを考えますか？

◆Sackomi プロジェクト◆トークセッション内容◆

Sackomi プロジェクトとは、様々な企画・計画を創り、国際的に活躍されているマリ共和国出身のサコ氏と、浦幌町で「子ども若者の想いを受け止める活動」を展開し、マリ共和国の自治体リーダーの学びを提供する近江氏がタッグを組み、“子どもたちの想いを受け止める文化”をマリからはじめアフリカ・全世界に広めていくことを目指すプロジェクト。

今回のトークセッションでは、Sackomi の活動を始める背景・可能性、そして100年後に向けた未来への提言を両氏が行う。子どもたちが未来に希望を抱くためには、活動と共に成長する若者たち自らで社会を希望にあふれたものにしていくことが必要となる。さらに欠かせないのが、先を生きている大人たちの若者へのサポートと若者と共に大人たちが明るい未来を語り、創っていくその姿こそが、子どもたちにとって未来への希望となる。サコ氏と近江氏の生き様に触れ、参加者それぞれ未来を思考するトークセッション。

科学技術は本来、目的のために利用するものです。しかし、現代の我々は、時に科学技術に使われていると感じる場面を目にすることがあるだろう。そうすると、私たちが本来目指すべき「**つくりたい社会**」ではなく、**科学技術によって「つくれる社会」**が出現してしまう。そうならないために必要な「**社会を想像する力**」は、視野を広く持ち、歴史や哲学を通じた自己認識から起こってくるものではないだろうか。

今回、北海道内の過疎が止まらない町で始まった活動がマリ共和国そしてアフリカ全体に広がる可能性がある。北海道大学には、一見無関係に思える中に何が見えるのか。学生と教職員がともに参加し、**現実のさまざまな問題を自分事と捉え、その上でどのような活動・プロジェクトが可能なのかを考える一歩**となることを願って。～大学院教育推進機構より～



【問合せ】

大学院教育推進機構

daigakuin@academic.hokudai.ac.jp



HOKKAIDO
UNIVERSITY

150th
HOKKAIDO UNIVERSITY

北海道大学は2026年で150周年を迎えます